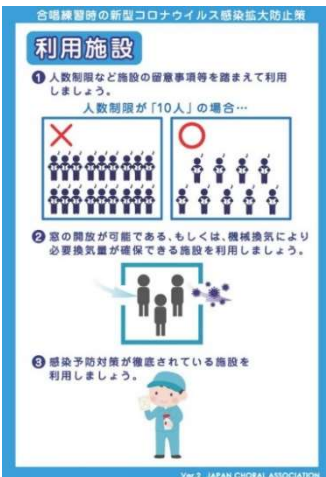


合唱活動のガイドライン改訂 自己裁量の幅が大きくなったか 全日本合唱連盟

全日本合唱連盟の「合唱活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止のガイドライン」第2版がようやく11月26日に出されました



本ガイドラインは、新型コロナウイルス感染症対策本部の基本方針やその他多くの指針等に基づいて全日本合唱連盟が6月に第1版を策定し、9月第1.1版として更新しています。今回は全日本独自の取り組みや他の多くの知見に基づいて、現在示している範囲で具体的に記載されていると思われます。

全日本では、「合唱活動を始めとする文化芸術活動を停止するのではなく、いかに継続させ発展させていくか」という観点で整理したものです。感染拡大防止策を講じた上で、合唱関係者、施設関係者が連携して合唱活動を深化させていくこと、「私たち文化芸術に親しみ、合唱活動を共有する者の責務ではないでしょうか」というスタンスを基本としています。主な改正点は、以下の三点です。

- ① 政府の新たな指針・見解を追記
- ② 合唱公演時の感染拡大防止策を新たに記載
- ③ 全日本合唱連盟及び東京都合唱連盟による実証実験の結果を基にした数字の見直し

全日本と東京都連が8月23日共同で行った飛沫実証実験について、途中報告は出たものの最終の報告が待たれていましたが、その結果は今回のガイドラインに「歌唱による飛沫拡散の検証」として盛り込まれています。実験結果のまとめとしては少々読み取りにくい部分がありますが、要約すると次のようになります。

✧飛沫実証実験の結果✧

◎飛沫の検証：マスク無し

—日本語(大地讃頌)→発声方向の到達距離：男性46.5cm(最大61cm)/女性26.5cm(最大57cm)/いずれも100cmは飛ばなかったが右斜め前は70cm飛んだ/歌唱と朗読では差がなかった

—ドイツ語(第九)→日本語の約2倍飛んだ(最大111cm)/母音唱では飛沫は観測されなかった

◎エアロゾルの検証：(マスクの有無は不明)

—口元で1000個以上観測された/距離とともに激減するが前方100cmで数個~数十個観測された/女性は男性より微細なエアロゾルが多かった

◎マスク等の効果

—通常のマスク(不織布、布、ポリエステル)は飛沫が顕著に減少した/下部の解放が広いマスクは、下方からの飛沫の飛散が観測された/マウスシールドは飛沫の減少が見られたが微細なエアロゾルの飛散が確認された

ガイドライン全体をみると、より詳しく具体的に記載された部分もある一方で、個人や組織の判断に任された部分が散見されるものとなっています。

例えば、練習当日や公演当日のリハーサルの対策として、「①マスクを着用しない場合、団員の距離は発声する前方向に1.5m程度(最低1.2m)、左右は密が発生しない程度を確保し、団員同士が向かい合う配置は避ける。また、換気が十分にされていることを留意する」として、距離と換気が確保されればマスク無しを許容しています。

また「⑤マスクは飛沫拡散防止の効果があるため着用が望ましいが、表現上の問題を勘案して適宜判断する。」と自由裁量を認めています。

休憩時や練習後には「必要に応じてマスクを着用し、咳エチケットを実践する」としていますが、「必要に応じて」とは、必要なときに、必要になった場合に随時、といった意味で判断基準を自ら持つことが求められています。

さらに、「発声する前方向に1.5m程度(最低1.2m)」と具体的に記載する一方、「左右は密が発生しない程度を確保」とされ、果たして密が発生しない程度とはどのくらいの距離を指すのか判断に迷うところですが、すべての条件に付いて記載することは困難であることも確かであり、幅を持たせた表現にならざるを得ないということでしょうか。

改訂版詳細は全日本合唱連盟サイトをご覧ください。また、複数の人間が集まって歌うことは感染の懸念があるため、状況を見極めて実施するよう求めています。

(今号は、本来11月に発行する予定でしたが、PC故障により遅延してしまいました。飛沫実証実験結果は12月8日に公表されましたので、次号でレポートします。)